

令和8年度第1回広島県子ども・子育て審議会議事録概要

- 1 日 時 令和8年9月4日（金）13時30分から15時まで
- 2 方 法 WEB 会議
広島市中区基町10番52号
広島県庁本館5階 502会議室
- 3 出席委員 柏崎委員、片元委員、三須委員、山中委員、岡田委員、新谷委員、平松委員、
岡村委員、米田委員、阿部委員、荻野委員（代理）、箕野委員、平野委員、
石川委員、石田委員、橋本委員、日高委員、大里委員、野口委員
- 4 議 題（1）議 事 「ひろしま子供の未来みんなで応援プラン」の進捗状況について
（2）報告事項 子供施策に関する子供・若者の意見募集の結果について
- 5 担当部署 広島県健康福祉局子供未来応援課
TEL（082）513－3171 FAX（082）502-3674
- 6 会議の内容及び質疑応答
 - （1） 開会（事務局）
 - （2） 健康福祉局子供未来応援担当部長あいさつ
 - （3） 委員紹介
 - （4） 定足数確認
委員総員22名のうち19名が出席しており、広島県子ども・子育て審議会条例第6条第2項により、定足数を満たしていることを確認した。
 - （5） 会長職務代理者の指名及び部会の委員構成について
広島県子ども・子育て審議会条例第4条第3項の規定による会長の職務代理者について、石田会長が朝倉委員を指名した。
広島県子ども・子育て審議会条例第7条第2項の規定による部会に属すべき委員及び専門委員について、会長が次のとおり指名した。
計画部会
柏崎委員、三須委員、山中委員、平松委員、高井委員、岡村委員、阿部委員、石川委員
石田委員、大里委員、竹林地委員
保育部会
柏崎委員、三須委員、山中委員、新谷委員、荻野委員、石田委員
支援部会
三須委員、高井委員、石川委員、橋本委員、朝倉委員
処遇審査部会
野口委員
事例検証部会
橋本委員、野口委員

また、広島県子ども・子育て審議会条例第7条第3項の規定による部会長の指名について、次の委員が部会長に指名された。

計画部会、保育部会：石田委員

支援部会、事例検証部会：橋本委員

処遇審査部会：野口委員

(6) 議題

ア 議事 「ひろしま子供の未来みんなで応援プラン」の進捗状況について
配付資料について、事務局から説明した。

【質疑応答】資料2-4「目指す姿」に対する「現在の姿」

(石田会長)

ただいまの説明について、各委員から事前に質問等をいただいている。

まずは柏崎委員から「ネウボライイベントなどに参加した保護者の中で、「遊びは学び」を理解した割合は98.8%となっているが、どれくらいの方がイベントに参加したのか。」という質問が出ている。

また、三須委員から「ほとんどの保護者が「遊びは学び」を理解していると言える数値となっているが、調査対象の保護者はさまざまな家庭環境の方を対象としているのか、調査対象の人数は」という質問がでているが、どうか。

質問趣旨【P1 現在の姿 3パラ】

(柏崎委員)

ネウボライイベントなどに参加した保護者の中で「遊びは学び」を理解した割合は98.8%とおおむね理解しているのは取組の成果だと思うが、どれくらいの方がイベントに参加したのか。

(三須委員)

「遊びは学び」を理解できたと回答した保護者は98.8%と、ほとんどの保護者が理解しているという数値となるが、調査対象の保護者は様々な家庭環境の方を対象としているのか。また、調査対象の人数はどれくらいか。

(乳幼児教育支援センター長)

保護者の方に「遊びは学び」をお知らせするイベントとしては、「あそびのひろば」を開催している。「あそびのひろば」は、簡単な工作遊びを通して「遊びは学び」を体験していただく親子参加型イベントであり、ネウボラや商業施設などで開催している。開催に当たっては、令和7年度約1,200組のご家族に参加していただいた。

また、イベント以外にも、リーフレット等啓発資料の作成・周知を行っている。

「遊びは学び」の理解に関する調査については、年3回の啓発資料作成時にインターネットを活用したアンケートを実施、また、「あそびのひろば」を商業施設で実施する際、参加者にご協力いただいている。

このアンケートでは、家庭環境に関する調査は行っていないため、どのような家庭環境の方が回答したかは把握していないが、令和7年度の調査件数は、約2,000件となっている。

(柏崎委員)

たくさんの方がイベントに参加した上で、これだけ理解が深まっているのは素晴らしい。

(三須委員)

理解できたと回答した保護者がほぼ 100%となっているのはいい結果だと思うが、関心があるからこそイベントに参加した、アンケートに回答した側面もあると思われる。ぜひまだ関心のない方を発掘し、理解が広まっていくことを期待する。

(石田会長)

次に、橋本委員から「「親の力」をまなび合う学習プログラム」が対象を広げた形で展開されているのはとても良いことだが、今後の展開に必要なのは、新規開拓ではないか。今後の取組をお聞きしたい。」という意見が出ているが、どうか。

質問趣旨【P1 現在の姿 3 パラ】

(橋本委員)

子供との関わり方を保護者同士で学ぶ機会の充実について、「「親の力」をまなび合う学習プログラム」が対象を広げた形で展開されていることはとても良いことと受け止めるが、今後の展開に必要なのは、新規開拓だと思われる。今後の取組をお聞きしたい。

(乳幼児教育支援センター長)

平成 20 年度から県内各地で「親の力」をまなびあう学習プログラム（通称「親プロ」）を展開し、家庭教育支援の充実に取り組んできた。

その中で、ファシリテーターの皆様から、現代的な課題に対応した内容や、より気軽に参加できるプログラムを求める声が寄せられたことを踏まえ、令和 7 年度から新たな家庭教育支援プログラム「こころをつなぐ家庭教育プログラム」（通称「ここつな」）の実施を進めている。

また、各市町においては、道の駅や入学説明会の機会を捉えた実施や参加者の都合に合わせた時間に講座を実施するなど、参加しやすい場や機会を工夫した取組が進んでおり、家庭教育支援プログラム実施の場の新規開拓にも努めている。

今後も、社会情勢やニーズの変化を踏まえたプログラムの開発や好事例を積極的に周知するなど新たな場の開催を促すことで、家庭教育支援の一層の充実に努めてまいりたい。

(橋本委員)

「親プロ」のワークシートは新規に開発されたものが多く、ますます充実してきていると感じている。今後も実質的な展開を期待する。

(石田会長)

次に、大里委員から「「主体的な学び」が定着している児童生徒の割合について、中学校は他の校種と比べても目標との乖離が大きい。生徒が情報を収集し、整理・分析する力を育むために、今後どのような具体的な授業改善や支援を進めていく方針か。」という意見があるが、どうか。

質問趣旨【P3 現在の姿 1 パラ】

(大里委員)

探究的な学びを中核としたカリキュラムの普及や、研究授業を中核とした授業改善サイクルの確立に向けた取組を進めていただいていることに感謝申し上げます。

「主体的な学び」が定着している児童生徒の割合について、中学校は目標 76.0%に対し実績 66.2%と、他の校種と比べても目標との乖離が大きい状況にある。未達成の理由として、「情報の収集」や「整理・分析」に関する項目の肯定的回答が他の項目と比べて低いことを挙げているが、生徒が情報を収集し、整理・分析する力を育むために、今後どのような具体的な授業改善や支援を進めていく方針か。

(義務教育指導課長)

「情報の収集」や「整理・分析」に関する項目の肯定的回答が高い中学校では、これらの学習活動において ICT 機器を活用している割合も高い傾向が見られる。とりわけ「探究的な学び」に係る中学校の指定校では、一人 1 台端末等の ICT 機器を活用し、情報を収集・整理した上で分析し、自分の考えを表現する学習活動が充実しており、ICT 機器を活用した「情報の収集」及び「整理・分析」に関する項目の肯定的回答が県平均を 6.2 ポイント上回っている。

今後は、全ての中学校において指定校の実践を踏まえ、探究の学習過程の中に「情報の収集」及び「整理・分析」を明確に位置付けるとともに、一人 1 台端末等を活用して収集した情報を比較・分類・可視化するなど、思考の過程を具体的に扱う学習活動の充実を図っていく。あわせて、指定校の研究推進における試行錯誤のプロセスを参考資料として取りまとめ、県教育委員会ホームページで公開したところであり、研修や情報発信等の機会を通じて周知を図ることで、各学校がデジタル学習基盤を効果的に活用しながら、探究的な学びを組織的に推進できるよう支援していく。

(大里委員)

県教育委員会ホームページで公開している参考資料とは、探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業の資料のことか。

(義務教育指導課長)

その通りである。

(大里委員)

この参考資料を拝見したところ、各市町において、小学校・中学校を指定し、小学校と中学校の学びの接続を意識しながら、その取組を市町内に広げておられる点は大変優れた仕組みだと感心している。

しかし、ホームページ上の限られたスペースに入れるためか、例えば、地域の防災担当に直接話を聞いたとか、フォームを用いて市町内の児童生徒にアンケート調査を行ったなど、情報収集の学習活動そのものについては書かれているが、指標の未達理由に書かれているような、生徒自らが目的に応じて自ら情報を集めたり、情報や情報手段を主体的に選択したりしている姿や、情報が正確かどうか検討する姿など、具体的な姿が読み取れなかった。限られたスペースで難しいところもあると思うが、そのような具体的な姿を掲載することで他の中学校の参考になると思われる。今後も児童生徒の主体的な学びの推進をお願いしたい。

(義務教育指導課長)

委員ご指摘のとおり、画面の都合上短く記載しているところもある。実際に学校へ周知する際、あるいは研修等で事例を示す場合は、具体的な姿をより詳細に説明していくことで、学習のポイントを周知してまいりたい。

(石田会長)

次に、日高委員から「若い世代に対する取組として、実際に子どもと触れ合う機会の提供や子育て費用の可視化などは素晴らしい取組である。このような取組は県独自の事業なのか、市町と連携して実施しているのか。また、現在どの程度の市町で実施されているのか。あわせて、今後も継続・発展させていく予定があるのか。取組の有効性についても検証を行っていく予定があるのか。」と質問が出ているが、どうか。

質問趣旨【P12 主な取組と総合評価 ひろしま子育てもっと応援事業】

(日高委員)

若い世代に対する取組として、実際に子どもと触れ合う機会の提供や子育て費用の可視化など、非常に直接的かつ現実的な内容であり、大変素晴らしい取組だと感じた。

このような取組は県独自の事業なのか。それとも市町と連携して実施しているのか。また、現在どの程度の市町で実施されているのか。

あわせて、今後も継続・発展させていく予定があるのか、さらに、これらの取組の有効性についても検証を行っていく予定があるのか。

(子供未来応援課長)

ご質問のあった、乳幼児とのふれあい体験や経済的支援制度が見える化した「ひろしま FamNAVI+」の取組は県独自事業として実施しているが、対象者への広報周知等については市町にご協力をいただいている。ふれあい体験は、基本的に県内高等学校、大学、専門学校のうち、希望があったところで実施しており、学校の所在地としては、広島市、福山市、尾道市及び東広島市となっている。

これらの取組の有効性については、参加者へのアンケート等で検証を行っているところであり、例えば、ふれあい体験については、参加者の約7割が子育てに関する印象や興味関心が高まったとの感想をいただいている。これらの結果も踏まえ、適宜改善を図りながら、取組を継続していきまいたい。

(日高委員)

ふれあい体験については、私自身、大学生と接する中で、学生が赤ちゃんやご家族と触れ合うことで「将来自分も結婚して子供を持ちたいと思うようになった」など気持ちに変化する瞬間を日々見てきた。今後も取組を広げていっていただきたい。

経済的支援制度の見える化については、あまり詳細には掲載されていない印象を受けた。早くからどのような支援制度等があるか分かっていたら、結婚しても大丈夫だと思えるのではと思うため、今後より内容を充実させ、継続していっていただきたい。

(子供未来応援課長)

委員ご指摘のとおり、子供と接する機会がない方が増えている中で、ふれあい体験に参加された学生が生き生きと楽しそうにしていたのが印象的だった。今後より多くの学校等に広報していくとともに、その結果を情報発信することで、参加者以外にもポジティブなイメージを持っていただけるよう注力してまいりたい。

また、経済的支援制度の見える化についても、ご指摘のとおり内容が不十分なところはあると考えている。今後、若い方の意見も聞きながら、拡充を図ってまいりたい。

(石田会長)

続けて、日高委員から「SNS等の影響によって結婚へのハードルの高さやネガティブなイメージを抱いている」とは具体的にこういった情報等がネガティブなイメージにつながっていると分析しているか、また、そのような課題に対してどのような対応により結婚に対するハードルを下げようとしているのか。」という意見が出ているが、どうか。

【質問趣旨】【P12 主な取組と総合評価 出会い・結婚支援こいのわ事業】

（日高委員）

こいのわ事業が成果を上げていることは、大変素晴らしいが、一方で、「SNS 等の影響によって結婚へのハードルの高さやネガティブなイメージを抱いている」としている点について、SNS のどのような情報や発信が、結婚に対するハードルの高さやネガティブなイメージにつながっていると分析しているのか。また、そのような課題に対して、結婚に対するハードルを下げるために、県としてどのような対応を考えているのか。

（子供未来応援課長）

昨年度県が実施した「県民の結婚の意識に関する調査」においては、若者から次のようなコメントがあり、SNS 等が、若者が思う結婚に対するハードルの高さやネガティブなイメージに影響しているものと考えている。

- ・ テレビや SNS で結婚相手として求められている人のスペックを見ると、年収や外見、性格などが完璧な人でないと結婚できないように感じ、自分には難しいと思ってしまう。
- ・ SNS で、男性は年収 500 万円ではダメ、という投稿がバズっているのを見ると、年収が高くないとうまくいかないと思う。
- ・ SNS では幸せな情報は叩かれて発信しにくく、悪口などのほうが盛り上がる。若い人がそういった負の側面だけに触れて、結婚に対してネガティブなイメージを持つ傾向はあると思う。

こういった SNS 等からの情報により、結婚に対してハードルを感じている方を対象に、今年度、結婚に対する漠然とした不安や悩みなどを言語化し、同じような思いを持っている人と共有することを目的としたワークショップを開催し、その結果を幅広く広報していきたいと考えている。また、ワークショップや広報の中で、昨年度の調査結果、例えば、実は結婚にあたって相手の年収は気にしない人が最も多いといった情報も共有していきたい。

（日高委員）

学生からも「お金がかかる」「年収が高くない」という声は私もよく聞いている。若者は、ネガティブな情報を、そういうものだとして受け取ってしまう傾向があるため、そうではない側面や既婚者の実体験などの正しい情報を周知していってもらいたい。

（石田会長）

次に、柏崎委員から「成果指標「悩み事があるとき、だれにも相談できない、相談したくないと回答した子供の割合」について、これは重要な問題である。調査が 5 年おきとなっている理由は何か。」という質問が出ている。

あわせて、三須委員からも「調査が 5 年おきなのはなぜか。昨今 AI に相談する割合が急速に高くなっていることも予想されるため、誰に相談するのも把握した上で、そのメリットデメリットを学ぶ機会も必要ではないか。」という質問が出ているが、これらについてどうか。

【質問趣旨】【P19 成果指標「悩み事があるとき、だれにも相談できない、相談したくないと回答した子供の割合（小学 5 年生）」「悩み事があるとき、だれにも相談できない、相談したくないと回答した子供の割合（中学 2 年生）」】

（柏崎委員）

子供たちを取り巻く環境は急激に変化している中で、大変重要な問題である。緊急対応が必要な状態に発展する可能性もある問題かと思うが、調査のスパンが毎年ではなく 5 年おきと長期なのはなぜか。

(三須委員)

本調査はなぜ5年に一度の調査なのか。

同時に、最近AIに相談して起きた事件があったが、昨今AIに相談する割合が急速に高くなっていることも予想されるため、誰に相談するのも把握した上で、そのメリットデメリットを学ぶ機会も必要ではないか。

(子供未来応援課長)

当該指標については、「広島県子供の生活に関する実態調査」によって把握しており、プラン見直し時期にあわせて5年ごとに実施している。この調査は、県内全域の小5、中2の子供本人と保護者の方を対象に、市町のご協力もいただきながら実施している。かなり大規模な調査であるため、毎年実施することが実務的に困難であること、また、本指標は、複数の取組の成果を総括的に測る指標であることから、5年おきに状況を把握することとしている。

なお、子供たちを取り巻く環境の変化等については、本調査に加えて、今年度から実施している「子供施策に関する子供・若者の意見の募集」や子供の居場所づくりの取組における現場へのヒアリングを通じて、随時状況を把握していく。

また、AIについては、委員ご指摘のとおり、子供が選ぶ相談先として、生成AIが最も多いという民間の調査結果があることも踏まえ、今後、子供が選ぶ相談先等について、状況を注視してまいりたい。

(柏崎委員)

誰かに相談できない子供が出てきたときには、スピーディーな対応が必要であること、三須委員のご指摘のとおり、AIがあつという間に浸透してしまったことを踏まえ、調査が5年に1度であることが心配だったが、現場へのアンケートやヒアリングをしていくとのことで安心した。今後も引き続き注視していただきたい。

(三須委員)

大規模なアンケートであるということで難しい部分もあると思うが、色々な手法を検討してほしい。

私も普段、子供相手に仕事をしているが、人と話すというシンプルなことを乳幼児から育てていく大事さ、例えば、答えを出すことだけが相談する意義ではなく、「大丈夫だよ」、「それでいいんじゃない?」、「心配しなくて良いよ」という言葉をくれる相手に出会えることも大切だと感じている。このことを今後も大事にして、保育・教育に携わっていきたい。

(子供未来応援課長)

委員ご指摘のとおり、不安や悩みを自分でも意識しないうちに身近な大人に話せる環境を作っていくことが大切と考えている。

今年度から、居場所づくり事業を開始したところであり、県内の居場所の見える化と情報発信のほか、研修や交流の機会等を通じて、運営者同士の横のつながりや、専門機関とのつながりを作っていけるよう取り組んでまいりたい。あわせて、この取組を通じて、居場所を利用している子供の声についても機会をみて聞いていきたいと考えている。

(石田会長)

次に、三須委員から「共育での推進について、今後の取組を期待する一方、男性の子育てに関する学びの機会やその内容はどのようにされているか。男性の育休、さらに時短勤務の取りやすさの推進もお願いしたい。」という意見があるが、どうか。

質問趣旨【P26 現在の姿 1パラ】

(三須委員)

共育での推進について、今後の取組を期待する。

一方、男性の子育てに関する学びの機会やその内容はどのようにされているか。妊娠期の女性のサポートも共育の一環であり、胎児はおなかの中にいても、愛着形成やボディーイメージを促す男性の関わりは大切であり、それが生まれてきてからの子育てのしやすさにもつながることが期待される。また、男性の育休取得は、出産前後に取得されるケースが一般的だが、多胎児のケースでは、ハイハイなど始めるくらいに入浴時にサポートなどが必要であると相談にくる母親もいる。男性の育休、さらに時短勤務の取りやすさの推進もお願いしたい。

(子供未来応援課長)

男性の子育てに関する学びの機会については、公益財団法人ひろしまこども夢財団が、お父さん応援プログラムとして、父親と赤ちゃんとのコミュニケーションの方法などに関する体験会を実施しているほか、各市町においてプレパパママ等を対象とした育児教室等を実施されている。また、今年度は、共家事・共育を各家庭で実践いただけるよう、意識変容や行動の実践を促す啓発資料の開発にも取り組むこととしている。

(人的資本経営促進課長)

男性の育児休業の取得については、男性育休制度内容の周知だけでなく、主な取得タイプや愛情曲線の回復のためには乳幼児期の子育て参画が必要であること等を紹介する他、短時間勤務等の多様な働き方の導入等、県内企業における優良事例に関する情報収集・発信や、特徴ある取組に関して当該企業を取材し動画で紹介するなどの事業を実施している。

引き続き、性別に関わらず、誰もが家事・育児に参画するという考え方の浸透や、男性が育児休業を取得しやすい職場環境づくりを促進してまいりたい。

(三須委員)

男性の子育ては、お母さんのために子育てのサポートに入るという方が多いが、頑張りすぎて過度になると「子供のために」というのが薄れることがある。抱っこ以外にも一緒にいるだけでもいいとか、意外とシンプルなことでもいいということを伝えてほしい。

また、男性の育休については、特に多胎児の保護者から、ちょうど子供が動き出す頃に夫が育休から復帰してしまって大変だという話を聞く。そういったときにどうしたらいいか、どこに相談したらいいか保護者に積極的に周知して行ってほしい。

(石田会長)

最後に、荻野委員から「令和7年度の評価結果を、令和8年度の事業見直しにどう反映するのか。」という意見があるが、どうか。

質問趣旨【その他】

(荻野委員)

令和7年度の評価結果を、令和8年度の事業見直しにどう反映するのか。今回の点検結果について、単なる進捗確認にとどめず、事業の拡充、縮小、廃止、予算の重点配分にどのように反映するのか。

(子供未来応援課長)

プランの進捗状況の評価結果については、審議会や県議会にもお示した上で、速やかに今年度

の取組に反映させるとともに、次年度以降の予算編成にも反映し、計画期間である5年間（R7～R11年度）で目標を達成できるよう、毎年度、取組の改善を図ることとしている。

（荻野委員【代理】）

市としても、県の計画に基づいて一緒に取り組んでいかなければならないと考えている。未達成のところや市としてもできていないところを県の力も借りながら進めてまいりたい。

※ 枠内の質問趣旨は、各委員から事前に出された意見・質問等の全文

イ 報告事項 子供施策に関する子供・若者の意見募集の結果について
配付資料について、事務局から説明した。

【質疑応答】資料3 子供・若者の意見募集結果

（日高委員）

若者から広く意見を募集されており参考になるが、回答人数は、WEBアンケートが29名、直接の意見募集が6名と少ないと感じた。今後は何回も実施し、回答数を増やしていくのか。大学等へ行けば、もっとたくさん意見を集められるのではと感じている。

（子供未来応援課長）

一般的に意見を募集する取組は、今回が初めての試みだったため、今後、回答数や実施方法を含めて検討していきたいと考えている。今年度においては、11月に再度意見募集を行いたいと考えているところである。

（石田会長）

プランの進捗点検が数字やパーセンテージで成果測定するものが多い中、子供・若者施策に関しては、このような自由記述を用いた方法で意見を聞くことが非常に重要なアプローチだと考える。意見募集の手法については、色々試みていただき、より一層展開していただきたい。

7 配付資料一覧

次第、委員名簿、県職員出席者名簿

資料1 広島県子ども・子育て審議会委員及び専門委員名簿

資料2-1 「ひろしま子供の未来みんなで応援プラン」進捗点検（令和7年度点検）

資料2-2 令和7年度 総括評価一覧

資料2-3 令和7年度 指標一覧

資料2-4 「目指す姿」に対する「現在の姿」

資料3 子供施策に関する子供・若者の意見募集の結果について